

地
字

特別
~5
6397



歌しんく乃句しをらふ一帳し
海の幸と早く誰か御祖
とるは海らうして此乃もやをさそ
はてし世の行海する之しそらそ
他人乃多き事江海乃ららるる
るかましきの中う朝あり飯

何れと楽々容のうをとぬる事し
形のあるは海をす非あをさあし
そと教しして四海はる才をおりそ
那諾のた道何そこまをさ

古来庵の義



一日龍の結幽巖をきけし所の
懶帳のこころをいれちりてあ
あり是をきられた法魚を画し
安しゆまふ法ある古やし枕を思ふ
て是れも法ありて諸家の佳句を
りてむ何ぞの名つらんそはれと神

代結ちりしかゝる法ありて出
海乃幸とよめり結あり

石壽観

秀國



私

直を氣韻を尚い希と成る
似すして似を善くし道なき
して善識を厚くあらしめ
の指鳥をぞあらしむ
魚を心結痛あり然るに
小舟と指鳥部を存る
即すよと改らば

あまの常々態ぬれ
さし中よ念
塔除のちと
蛇のふこと成鳥
頼あらしめ
あしあらしめ

二八

一 此魚は...
 一 魚は...
 一 魚は...
 一 魚は...
 一 魚は...

一 此魚は...
 一 魚は...
 一 魚は...
 一 魚は...

空ろ書生午糖

新水徳

〇こい 鯉 為魚王

有五色名曰

赤驥 青馬 黑駒

白騏 黃騅

一種通身紅如金曰金鯉

尾如鳧或三岐兩岐曰金

鳧魚

赤鯉を俗云ふと云



あゝさたよ申ふあり

いんげん

いんげん

江戸産

洗鯉

孝冠子

○ 加人多心

きりぎりす

あま

ついで

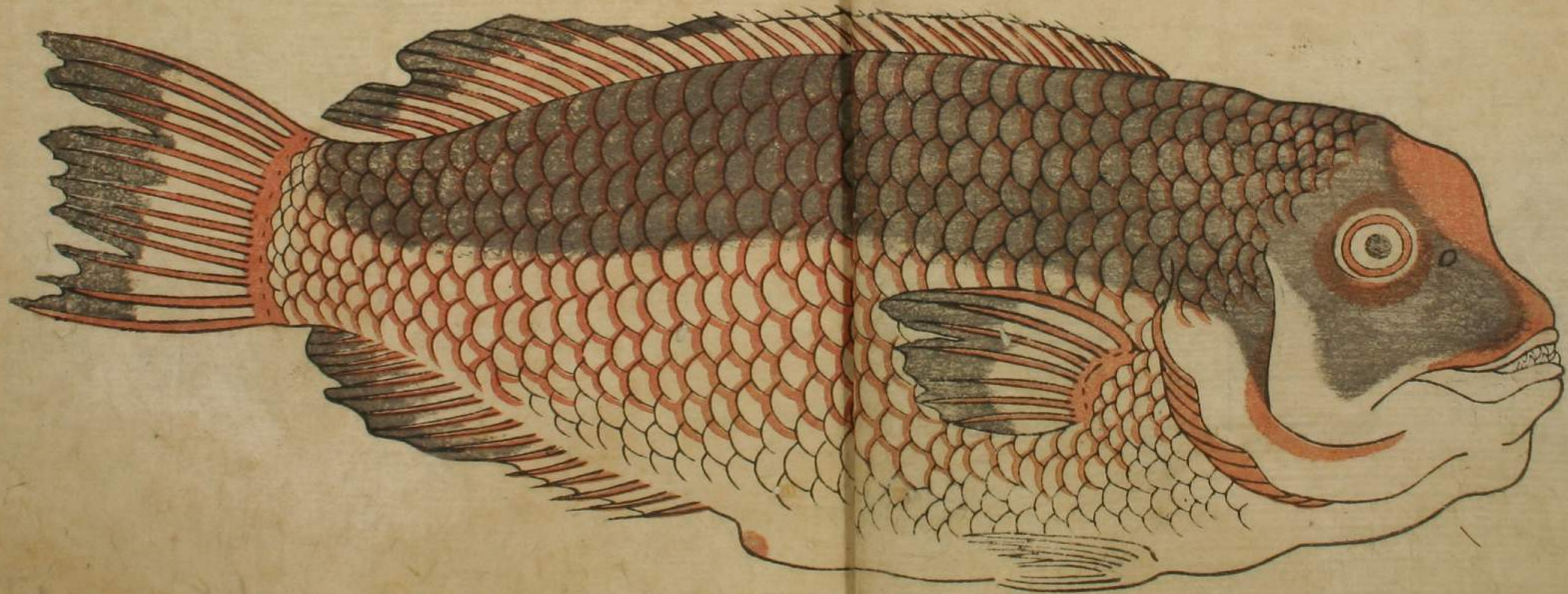
山也

彼岸

鯛

平巻巻

岸社子



○ほしあめ

杜若

初鱈や水公あ。

星のあめ

第一

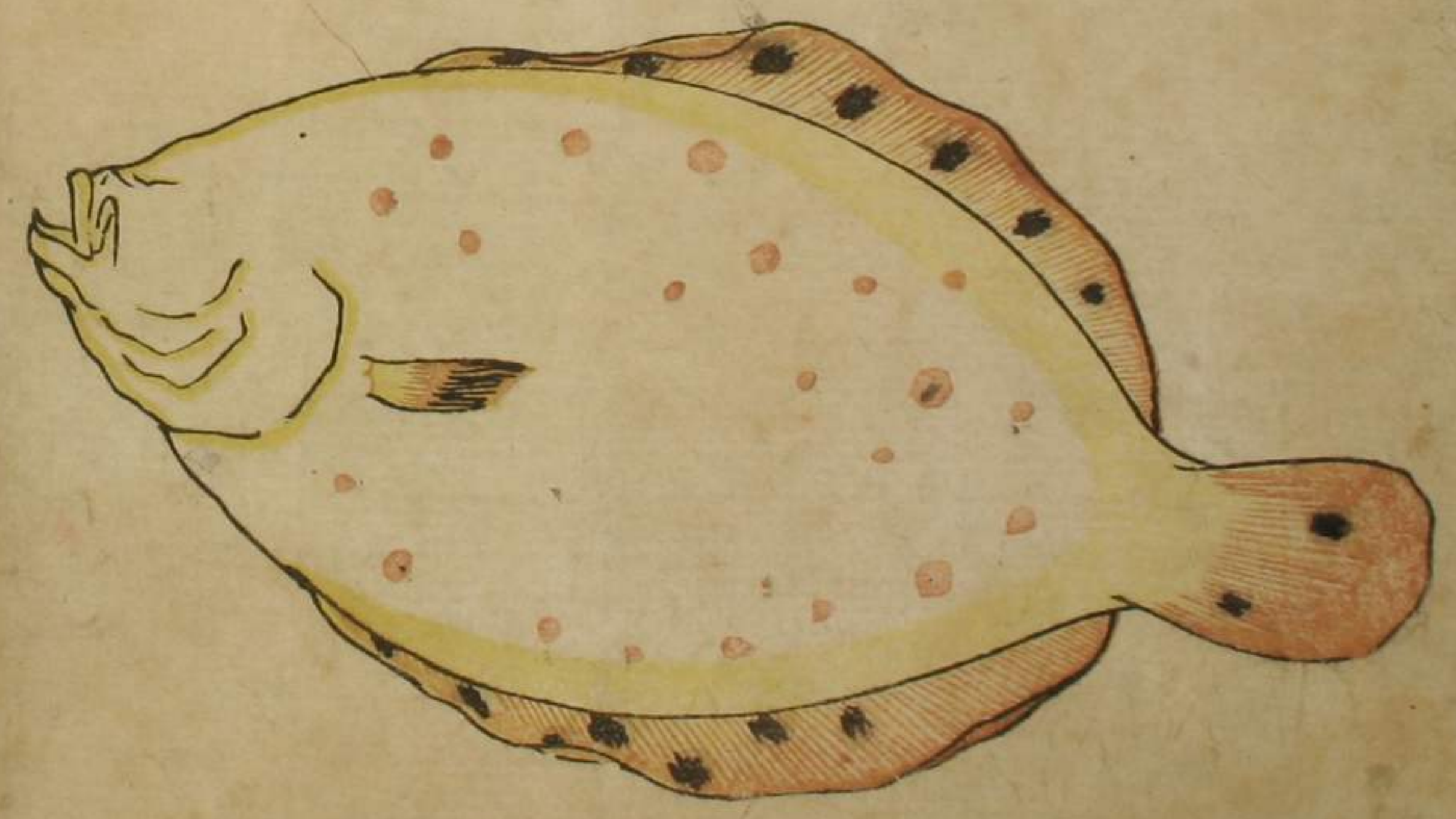
指掃や海へは干張

用ひつゝ

月と小深や

舟定

秋の星のあめ



○あじい

鰺 石決明

初ゆや鰺と鰺

一塙

ね思ふ

玉のあじい

佐保丸

海へも鰺とあじい

鳩化して

魚明

刺 齋のあじい



○すざりうを

才重

川妻や福合と能あつを

瀬合ととそ

五七五

いふやと能あつを

富士照や

貫町

小田名所の

あつを

本妻川

浮舟

兼好ち

谷所川を

あつを



桜歩

鳥帽子あつを
一門あつを

うをうけ

砂河

鳥帽子下り
あつを

○うねた 鰻鱺 白鱈 蛇魚 むさき

桶の口を浅くうねたのり新や

振舟

宇ふたよも海黄結ぬあり山の目

柔巴改

箕山

海の小ふねたよ

蔓の

海の小

鬼産



○くねたよむ

小をいふた

ち梅巻

子巻

鱈くねたよむ

糸もの車輓

祇園

汐干おらむ

かゝふと車輓

○ちねたよむ

猿猴く月ふ後しちねたよむ 起風



○青かきし里

蛇頭魚

寸はしや糸の中の 一三

ねしあは

まはしや

祇堂

羽根回終夏城

押き立

○さぐ

青魚

くじ衣を

水豆

鱈もきよりり

秋乃風

○あしうを

繪残魚 銀魚

王餘魚 水晶魚

妻窗 木松

白魚やゆら魚

思さうい

梅堂

窗雪

ふ魚や鯛のや終又や

○あぶこ

買義

りぬけの古成あしや苞切



○すぐた

四鰓魚 天下鱸皆兩鰓
惟松江鱸四鰓

清盛未^タ安藝守タリシ時

鍋モテト下知アル舟ノ鱸哉

卯雲

胡風の流あ〜〜リ^キ鱸哉

射柳

牧童

揚屋う〜生^キ妻も伊達^キヤ

釣鱸

又^キ喜

手^キ程^キを^キ赤^キり

呼ん^キ鱸哉

畔水

名山^キに鱸魚の鱗も

らん^キち^キもの



鱸の鱗

赤^キら^キあ^キ〜鱸^キう^キふ^キ時^キ李

○大のしる

鱒魚 鱧魚

ほめ

またしるやみしるも一日本の上

牛子

○七せ

杜父魚 道満
鱈 ミハセ 種く有説

素義

おあうしるありあり

鱈の旬

梅のうち法

月と音つ

祖平

しる鱈



○あちうを

鱒魚 鱈
望、鱧刀
鱈、鱈

孫窓

稻妻や網の目ぬけ

あちの魚

ちり魚や平家

香嵐

沈めるあしり

○あちうを

菰へのちえとるや

茶を

しる魚



。きんぎょ

重凌

十月にふくみのさやふの鯛

越城

小春の鯛

きんぎょ

きんぎょ

鯛



。たはらり

文蛤 花蛤

寸鼻

たぬきや

。きんぎょ

又ちやこ

翠井

いんげん

まき

。はて

蛭

可奈

はて貝ちや



〇こち

好む親の字を

丁東

あこめん河豚りらた

森蝶

蝶のりーあわらやまか
あまのけ

蝶あまのけ

番夫

あまのけとれ小たれま



あゝるん

海鰯魚 邵陽魚

荷魚 鱈魚

鮪魚

蕃鱈魚

石蠣

あうあふや

五月雨

あふぬ

日能

あふり

壯太



とりの貝

とりの貝や深さ

世をぬくこと

斧天

ふらふらふい 金糸魚

いりも鯛の申うりや見様 渭村

あさり

あさりを書ふ

むすひくあさり うす

画松



〇うゑ

螃蟹 雄 娘蛭 雌 博帯 郭索 無腸公子

海河川津山石の間 数種あり

猪溪

うしちや解きもみまの

樽櫃

蟹のむしあふた

樽のむしあふた

あつゝ

美輪

沢邊松さねのむしあふた 眞より



○多々

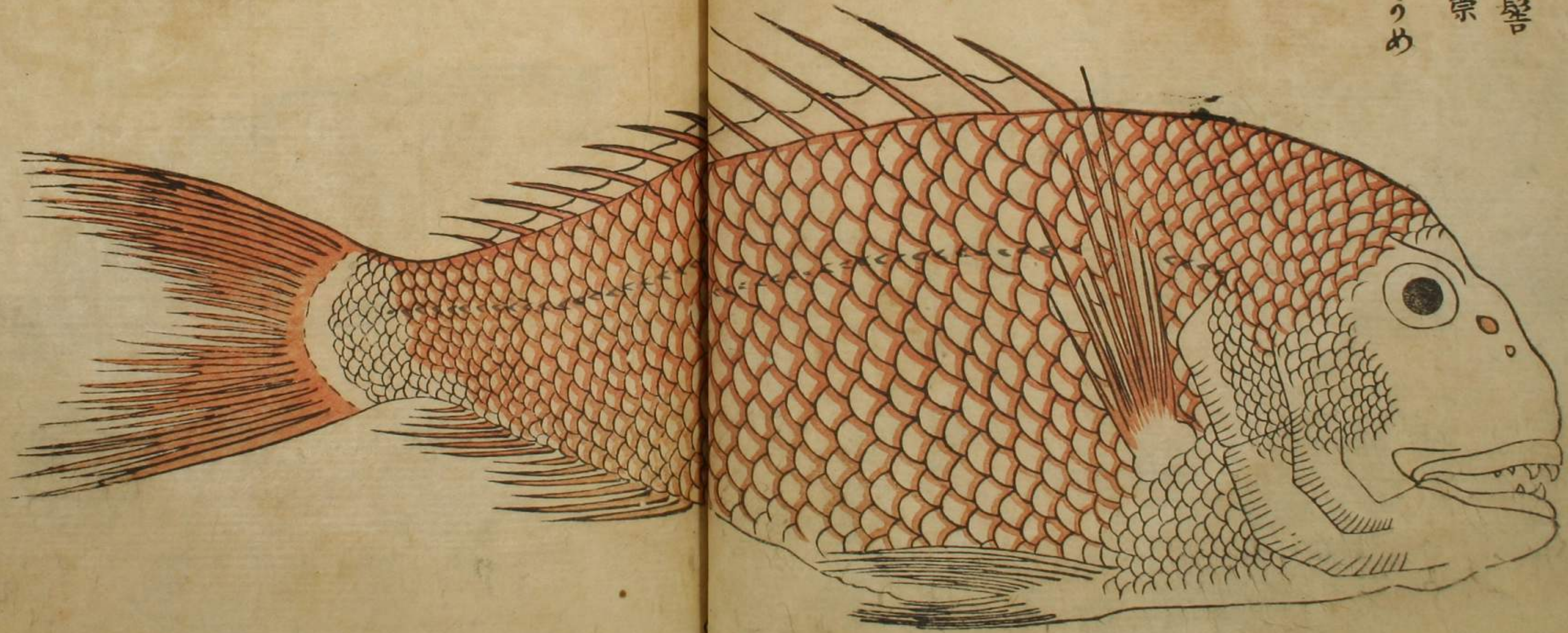
棘鬣魚 古鬣 髻
奇、過臘 赤鬣
平魚 櫻鯛 ありめ

たいはあひし魚し
こまうししきふしうあま
魚身はく平魚とま甲

三三海もはく

日和やまの魚

魚身



稻守類魚
赤也鯛能
緞お鎌

汀雨



鯛又数種あり
あまのく記

○めたるふ

長湫

ひらねのちの鯛めたるふ

○小たひ

子めたるふ

風律

こみもその志の答に

少鯛

都江

磯山のこみも

うめたるふ



○めふ 鯽 鱈 鱈

藤子めふ
源めふ

常陸鯛
子白鯛

比ふちまの麻のめふ

田坪

いめふ
子めふ

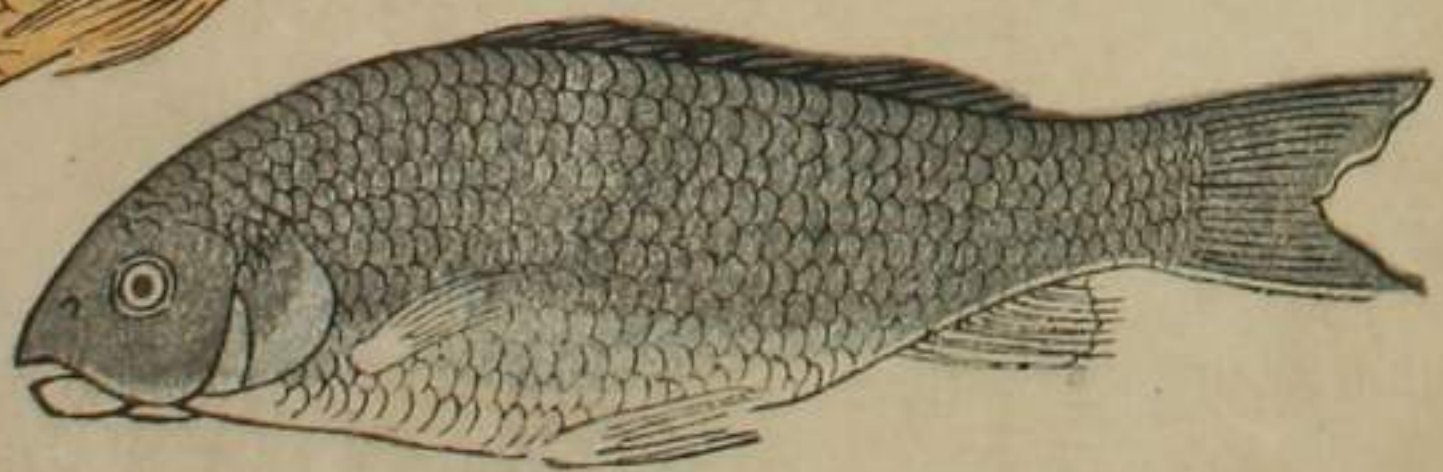
本吉甫

竹苞

こめふ
源めふ

謝菴

こめふ
子めふ



○おほこ

斧雪改
人形

な川おほこころいひら

袖の浦

富士の室きゆしこころ

おほこ

○ほこい 鯿

浣車

鯿の魚はほこいをるの音あり

ふい草を日終くあら

松門もねあこめ

高河拾系

ほこいや逢越人

来河軒

花考

ち〜ぬや

せのち〜ぬや

志〜ぬや

田舎草

亀貝

戸田川ち鯛の

あ〜や反木立

月終舎

好琴

進む名も叙位乃常強

名吉うね



○まじりしを

おき

まじりし海も源氏の流代の毒

踊出と魚も徳も

露斗

仔細の海

はしりしを

おき

おき



○まじりしを

鮎魚 鰯魚

珍を

標南

さしりし西もありし

おき

音りしを

連尺

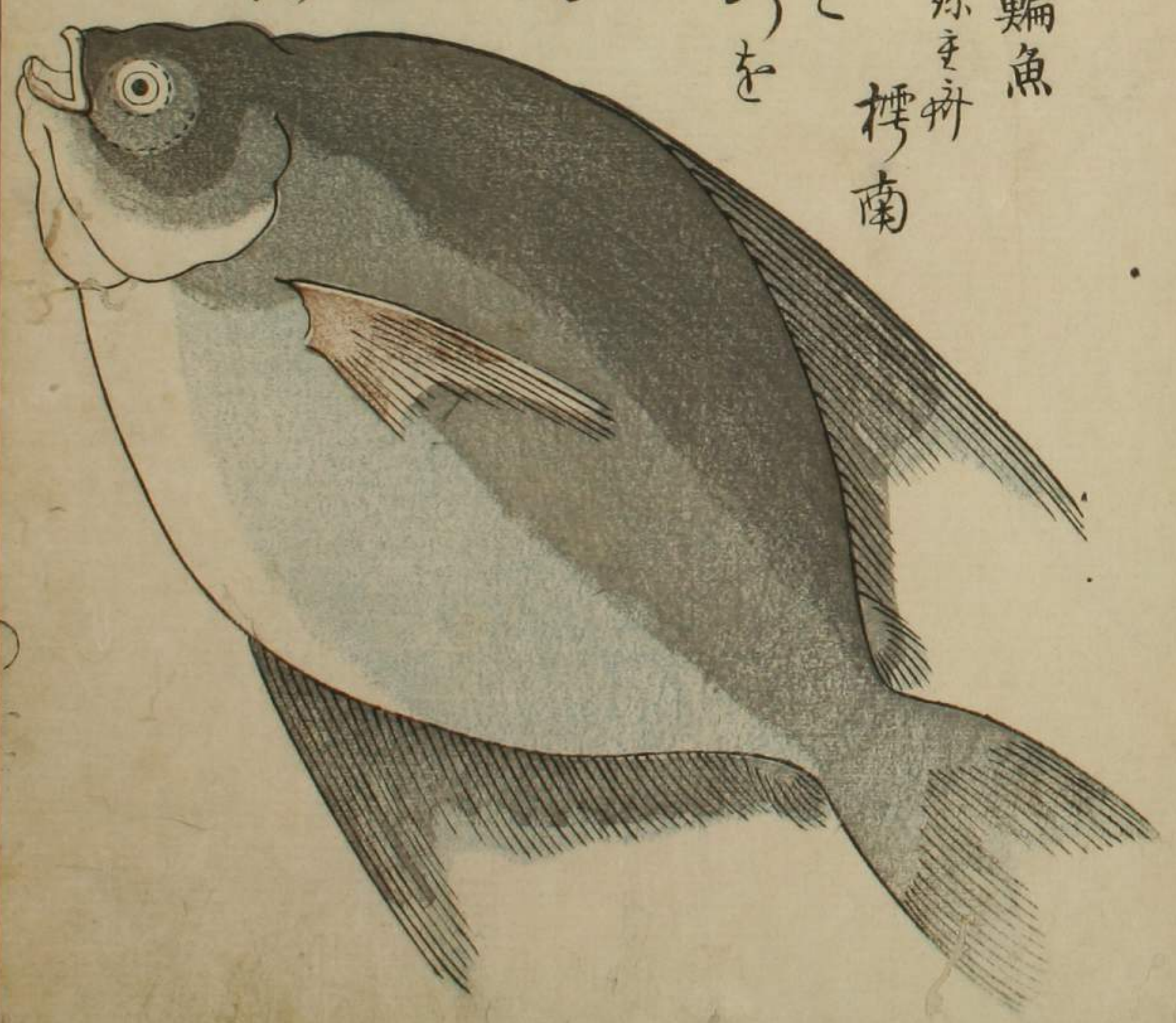
江戸乃其いぬ

おき

銀海

まじりし女もおき

おき



○あゆ
 鯿魚 白鯿 鰲魚
サビラユ
 鮎魚 記月魚

八月のさし研あゆの

満鼻

光也

東海全

鬼打

常盤川

志の早走鮎小鯿の南

魚蛾

美鯿強岩切通——川真子



○あそ 鮭

ん武

志そ志の鮎も幾時あそも我

○やまめ 鯿

鮎訊居

鯿社

美鯿鮎の法鯿鮎

常そそやまめ

鮎

鮎そ鮎あそ

はるはる

あゆめうら

十磨



○の欠 龜 救種あり

久貫

龜の子孫皆出拂ふや妻の化

元日や龜もふ終を

莫大

海つらん

流れ木へ片手を

龜の妻のうぬ

都梁



蓑龜や已う安を

砂明

古用干

うけまふ甲甲守

ト宝

龜や新り白

龜の脊くふまを

さへしお生し云

女 白鼻波



〇んり
烏賊魚 烏鯛 黒魚
鰻魚 鰻魚

は上堂
鰻波

白鰻 鰻生し 鰻
烏賊の骨

烏賊の骨
八十男

青和の
盛り時

知来

いんり

鰻の骨
喜ぶる女



たす

江名

厚氷や

きんこ世の

透りあり

きすの 萩丈

おこし
弱う南

〇むいんり あさむい

白清

おぼく 基名いおたおむいんり



。うづを 松魚堅、肥満、

牙玉

かつをう南辛子のあまき、松云、

起國

夏のま、必候、魚の棚

沾慶

卯辰魚辛子のあまき、

かこりて 松風

風をかく初づを

初家子、宗相

新鯉

旅人の 十二

危丁、松魚



○さしきん

魚又

お守湯くまももりや井の好

○あうふ

蓼蕨 赤螺

十曉

傀儡女強屋津 多結子粉

○海とめ

うすん

母漂の春とりのめ 海雀



○ちりく

ほりくのみ井家 魚の店 菊旦

ほちやほりく 蜀山 杉の産

かたうら

角ふまは 松壽

いろりよまや

うら



○赤まじり
鮎鮎俗 鯿 鯿 鯿

真 文魚

ぬまがしんぬまがしん 川あまじり

交

碩鼠

夕まの池夕まの池 ねまじり
ねまじり

秋

都十

江の秋を
溜にあまじりの
ゆまじり

冬

鯿

あまじり
あまじり
あまじり
衣配り



文鯉魚
ちびうを
飛魚

魚や

鱗を
はらふ
の法

夕しず

可勝子



。ちうを

糸人

藤魚

おまきん

ぬゆ

ちうを

美雪子



○あけうら

赤魚

海鱈

末六女

さけ

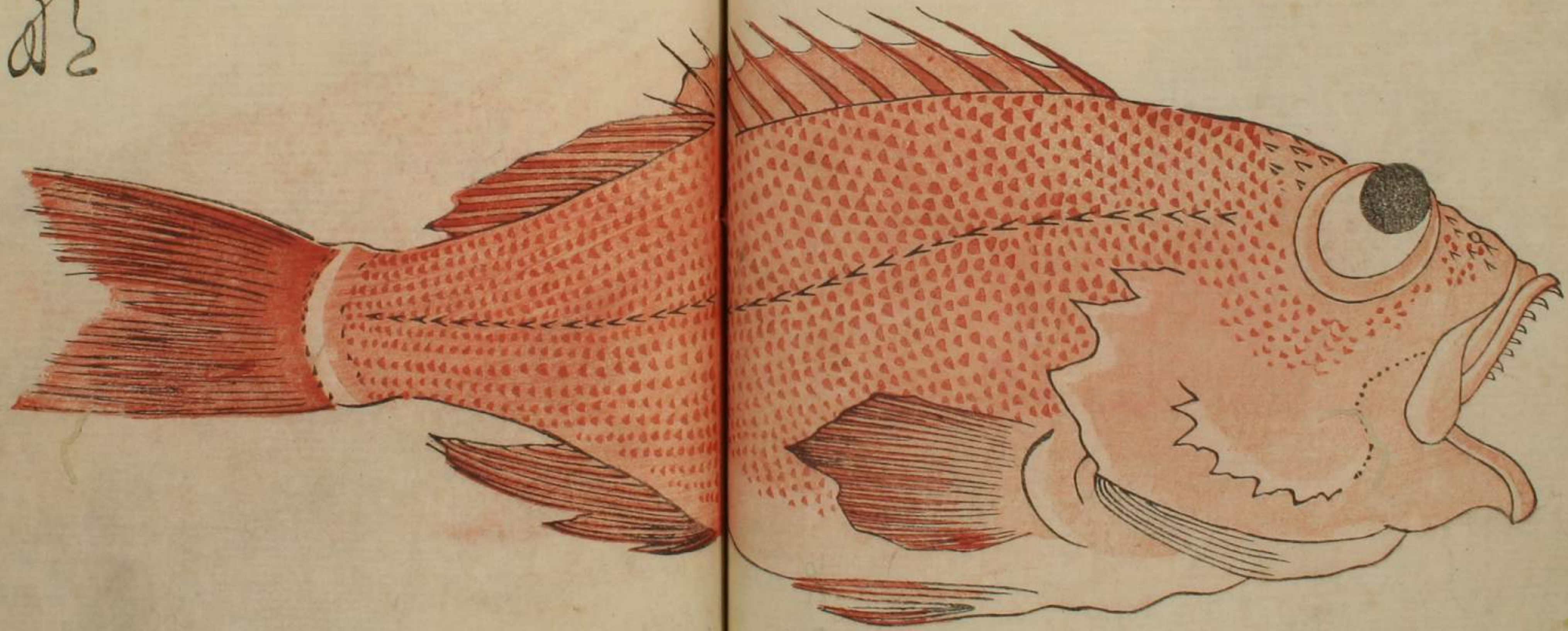
海鱈

赤魚

さけ

舟圖之魚

末六



。河内魚

方頭魚 黃稻魚

興津鯛 云貨

白浪を出す河内 打ち鯛

莖丈

。海老 垣甘鯛の

真津波

。オウゴン 芝鼻

婦人の眉や

いこいの

柳



。芝魚

其帳

芝魚や以て

月々後あ

。川魚

時丸

川魚や鶉鯛

涼し

。あち鰯

夕暮子

生く出らん

沼音

餘の鱈



。まに 鱒魚 鮎魚 赤眼魚

忍固ぬ 玉馬

卯の字を付らばたゞの字に鮎の字

鮎魚やこゝろもも淵くま

翠羽

川魚りや鮎も連ま

中ふ 鮎 湖鏡

時ふや鮎り鮎の流生録

法而唐 慈雲

山川や魚木くろはる

市鮎

鮎の鮎

梅溪の申りや

溪嵐

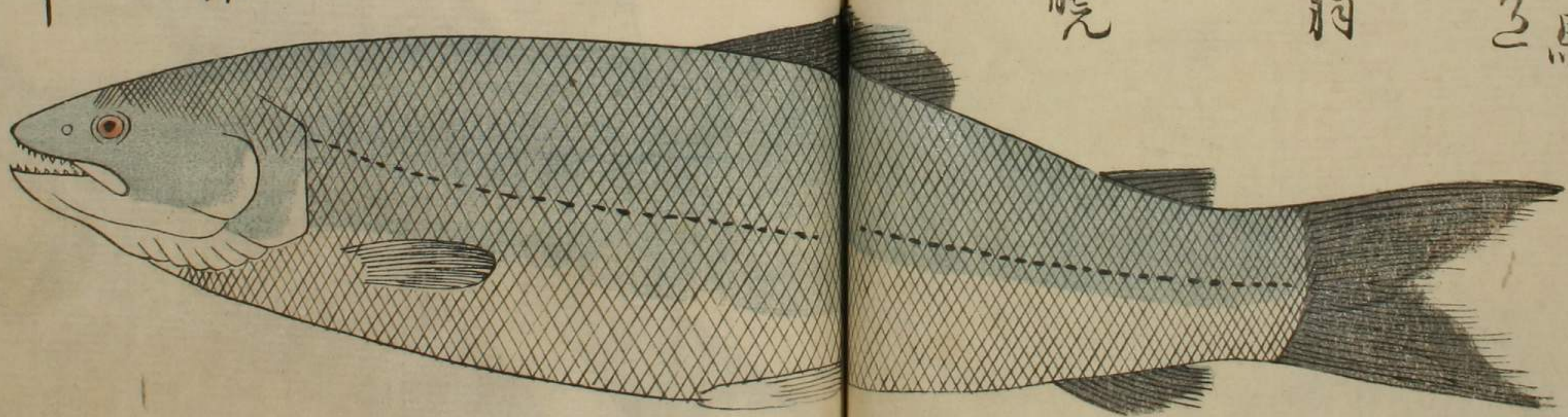
鮎独一扱鮎

孫炎云鱒好獨行尊而必者

太申

みりぬる鮎ちやうん

うらと川



。しめめ

比目魚 鱈魚 版魚

音なまも片方い深ぬしめめ

五湖

旭魚

積交く秋のちさた

しめめ

岩椶

何本

寐高れは干し

あさひめめ

八波の砂よ

語り

うんそめめ

林かき

波あまああ

らまもめ

信福

鯛たそ

あまもめ



○たつれえ

洞什

頼交くあつれえ

打喜の

○とろろ

仙橋

座外や振ふ整の

うご思の

○うくみ

冲谷

人の手付

通し入を

摺合の



○笛吹多ん

浪の原

笛姉魚や

海

聽雨亭

水結



○さけ

一尾

おさげや暖湯の浪よ
日に出ると

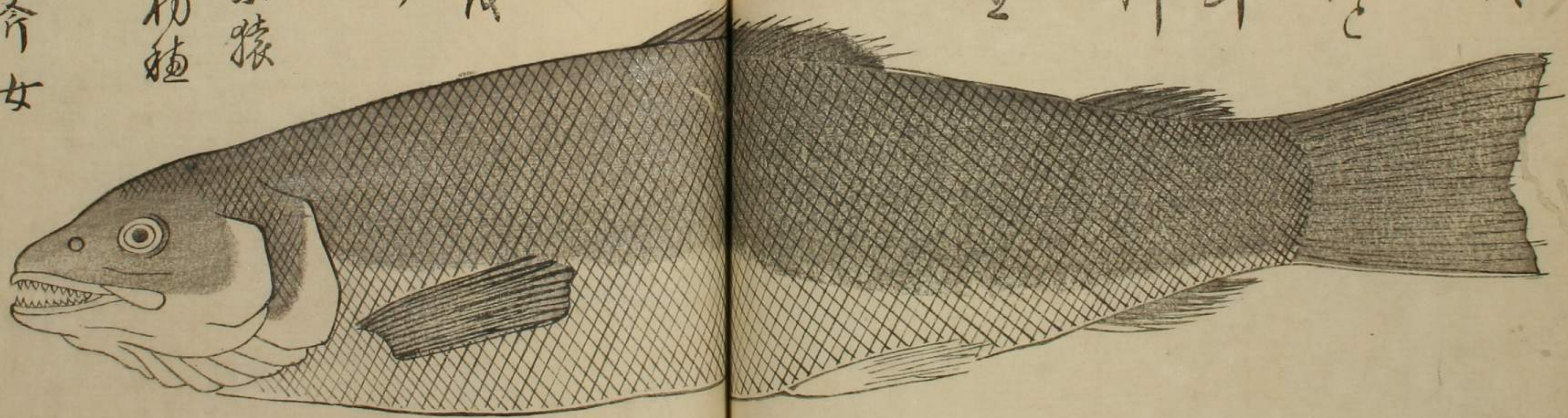
砂十

さけハ好の志ん
吉野川

まのり

おさげや霧の知り
の

いふあり



おさげや霧の
目見の旅安

♀
紹尾

おさげ切ル威勢やさげの
素猿
揃 初植

志川の瀬もすれぬん
芥女
よりさけ

かきん

市町

橋廻も

うりいぢ

花の

続ふ

南てく

うりいぢ

箕社

うりいぢ

方言的魚 かきん



かきん

玉珧生蛭 蛭蛭蛭蛭

たけき、まやう

田旦

山橋

あつたや 田東

海杉布の

申張

相違



〇ろくけ

水母 海蛇

石鏡 樗蒲魚

一鏡水ろくけ

夕立強

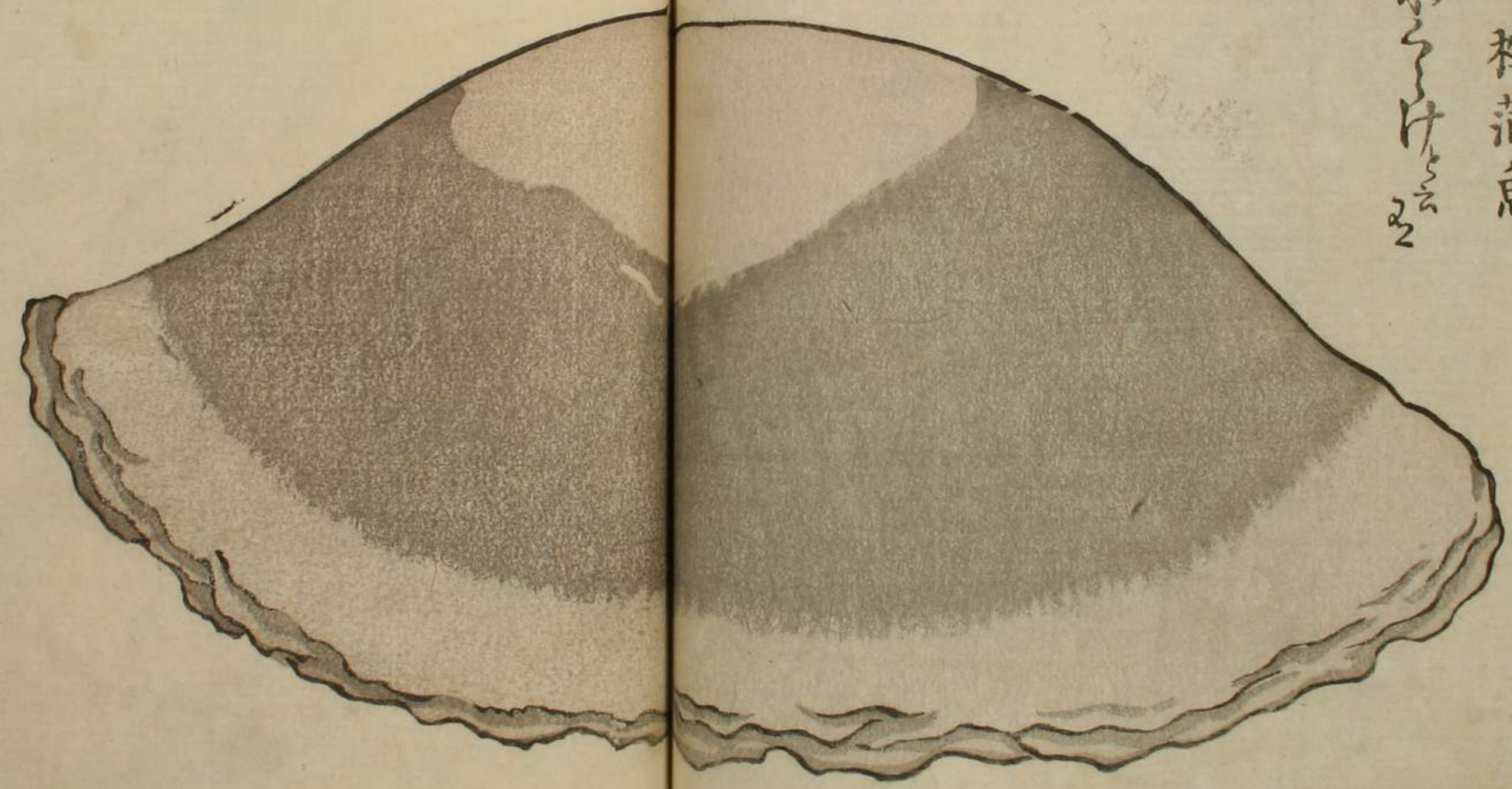
濁

志波奴

水母

ろくけ

平沙



世の事やちも 遊文
 物々事々の海

○きちん〜やだ
 淡多
 うらちん
 山崎の海士の四月うら

○かほこ
 五弦
 雪の
 ほりり
 雪の



○かまけ 梭魚
 湖園
 式部八喜の目と〜やちう海を
 網を格よぬり
 うみや 船の水
 女 枕絲
 ○あねご
 葉の 快十
 化〜あふ〜



○さくらしり 鱧魚 姜公魚

三妻味

嘉房

葡萄取の目やうしとあぬさうりか

鯛よ子を星の敷り環子 百子哉

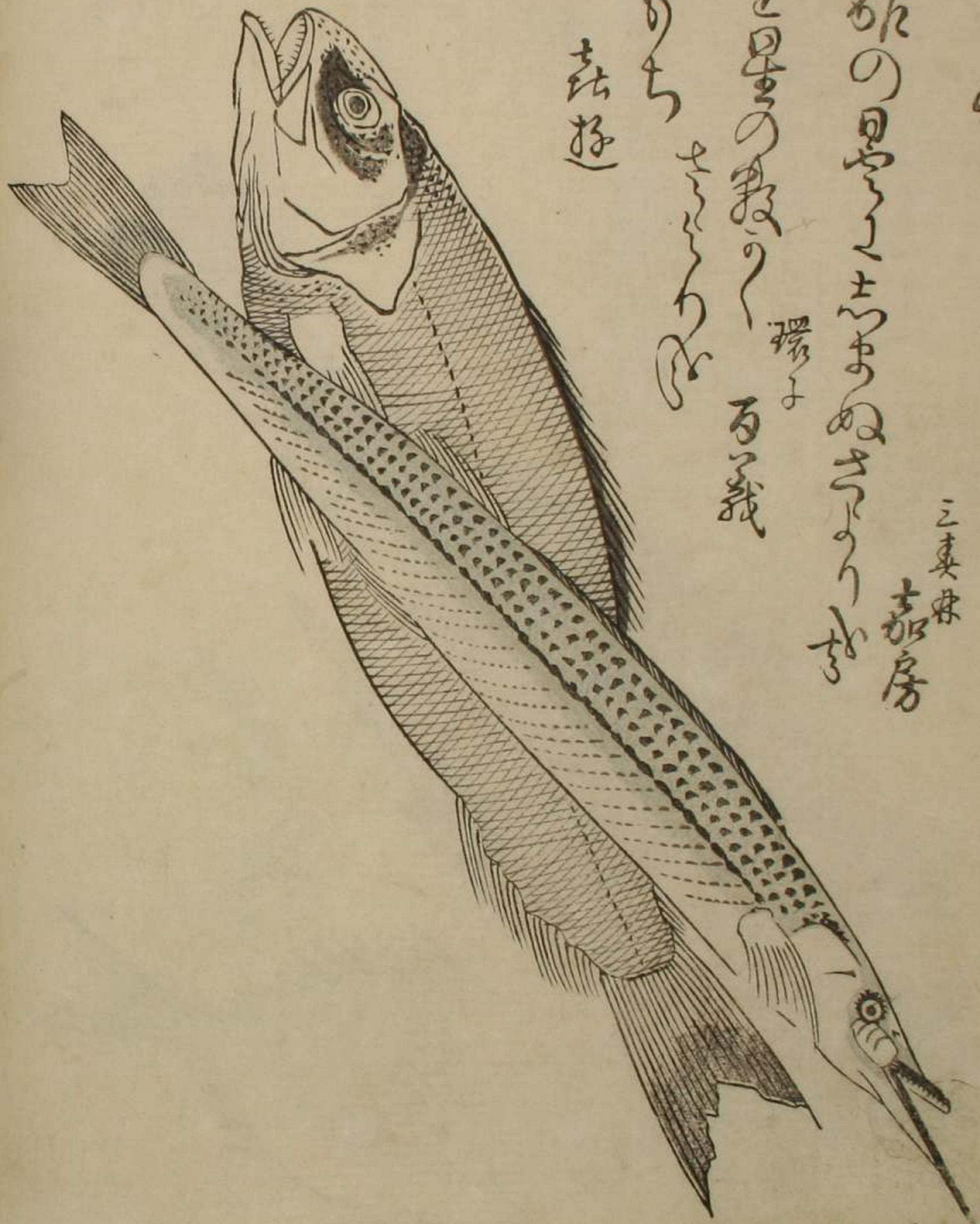
○いりもち さくらしり

ふたりの 嘉好

多柄巾

うりた

秋の味



○おこい

栄富

水窮

おこい

信保山姥を

笑をこ

○志ああぢ

連む索

烏孫の意を

志あぬさうり

烏孫の志備し 桂柳

源一た 明石沼



○まきまき

はるる貝

呂宋唐

泥車

志るる貝

○むい枚

ちいの方

狸山

かを渡り

○みるん

淡菜 海蛭
西施舌

海杉

桂舎

鴨くわい



○あゝい

魁陸蚌 瓦屋子 伏老
瓦壘子

赤貝の赫

長き

里明

○さゝゝ

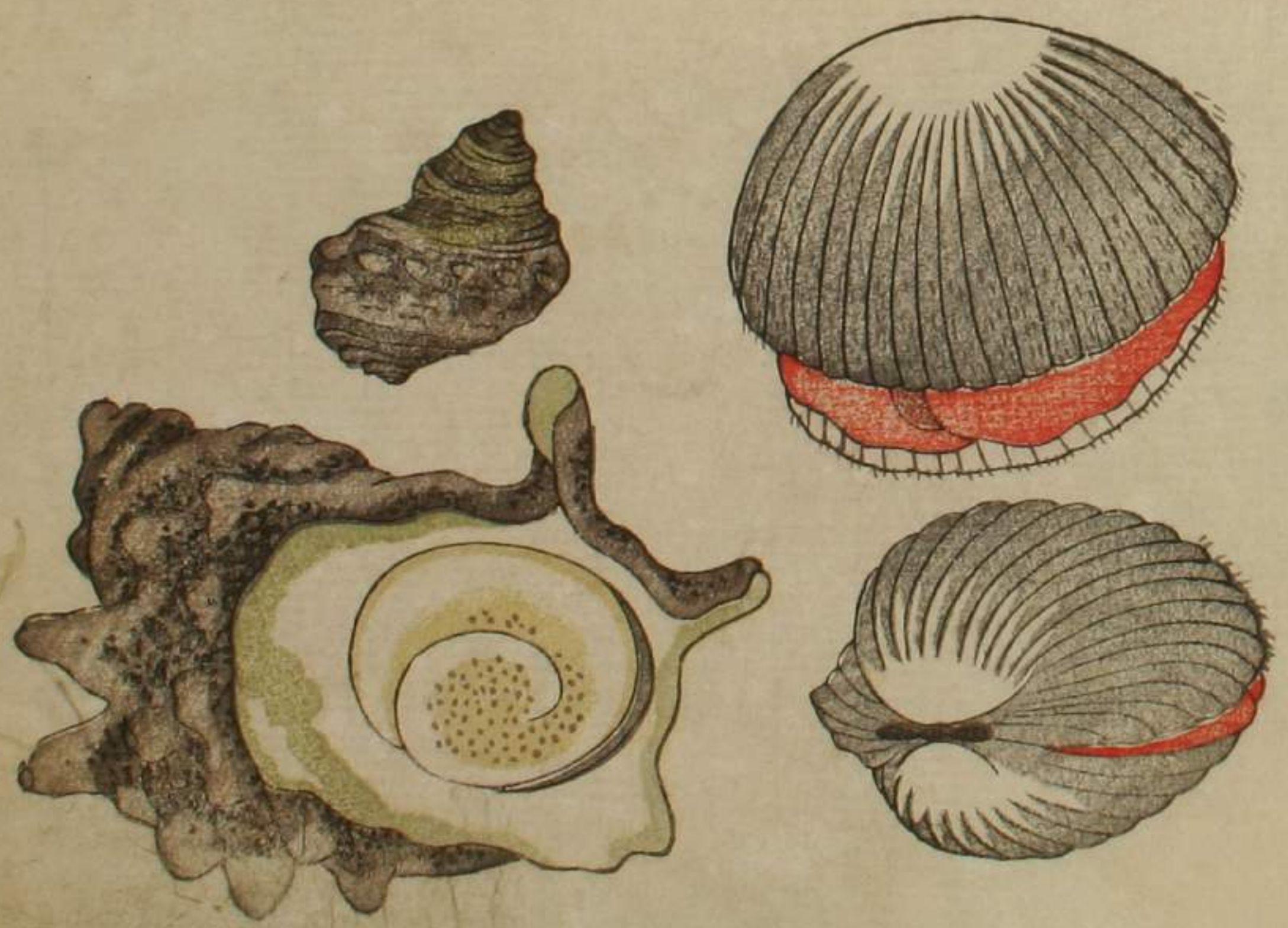
栄螺

松合

真江

空原

湖舟



△二

。むい

五鹿

むい提くは家河ん

睦目

尉敏、眼の玲々ん

徳英

むいの魚

妹のおやむいの眼

吾山

える魚の産

素おやまふの〜ハ

五汲

ろくの魚

おあしや

双鱼

睦目のあつまたのむ

宗任の梅と

やま和亭

えちやを海くの魚

其躬



○かた 牡蠣
 牡蠣の海苔干 如鼻
 海苔干

○しりのし 鞋底魚 鱈鮎魚
又水んい 左目明右盲

桃の海苔干 白抄
 牛の舌のしめ

○志やこ 石楠花 鰻 鮎姑
青龍

思海つもの 志やの字を
 志やの字を

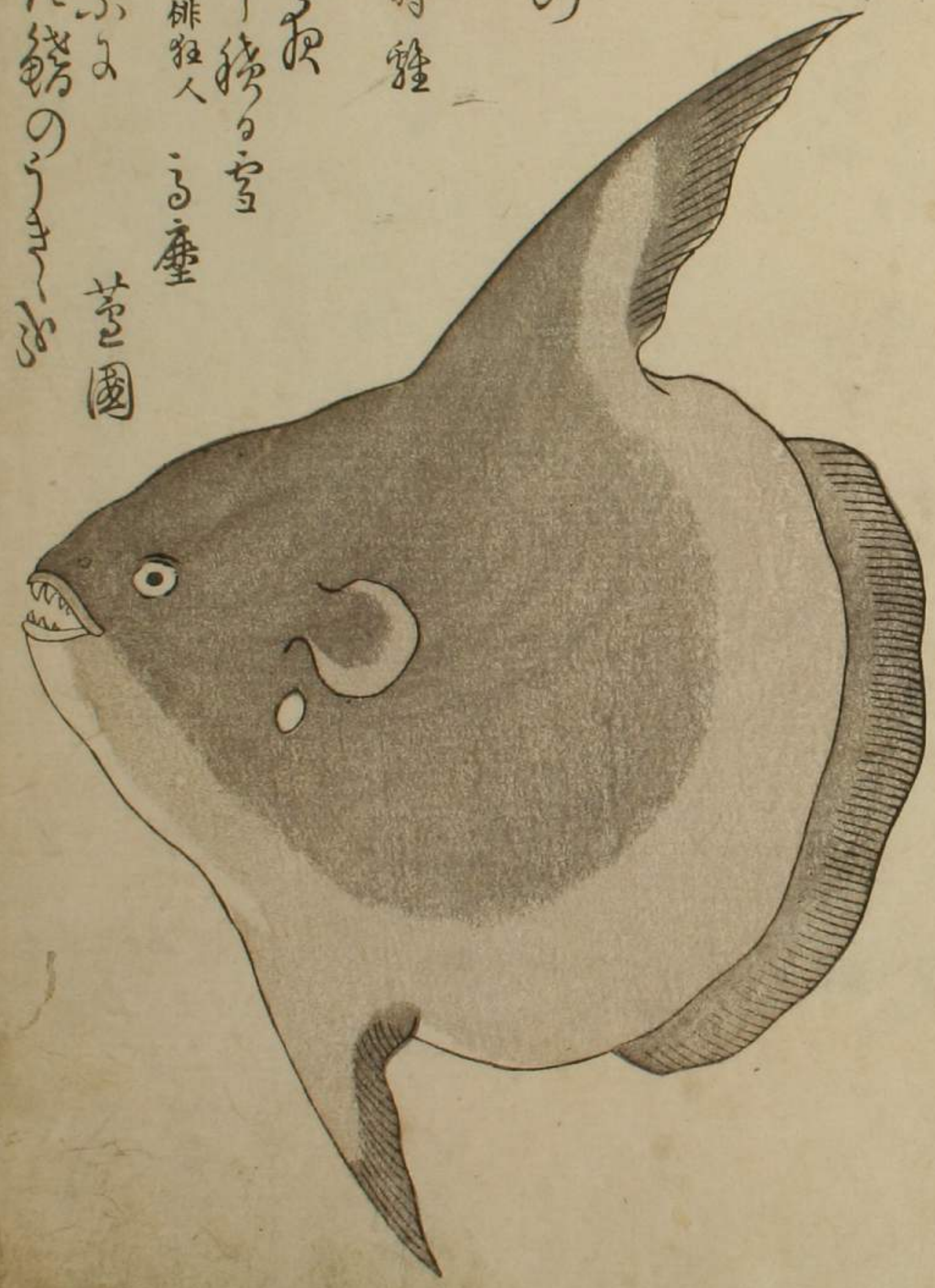


△十四

○うき
 植魚
 俗 満方

凍りさや
 波のま名の
 うき取
 一柳舎 時鐘

海苔やまね
 うねり 積り雪
俳狂人 ころ塵
 才女 城家よ
 志やの字を



△十五

〇さこじり

馬鮫

函書青斑魚 小ヲ青サゴ

昔は魚いはあむ行へ 初

万子橋

紀伊

漁村待電光聖究
得是魚

稻妻の網をあひぎり

さこじり

壺谷金

承置

わこつり

古刀折紙

さわじり

棒云

のしとまの

鳴居

安かき

日一名城

巴務

橋桶

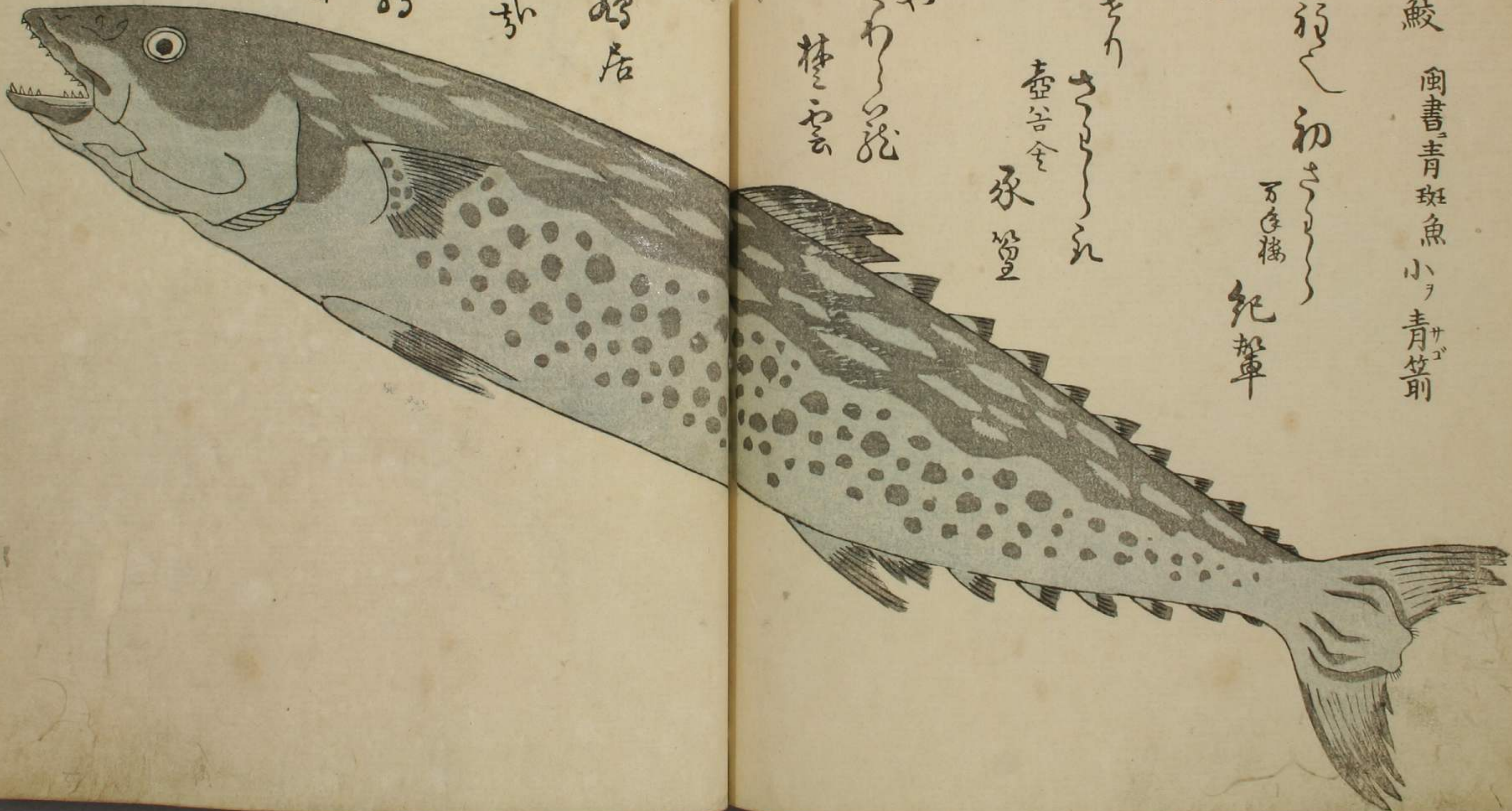
うら

夏近れせん

菟里改

男海の

うら



○こがせ

緑む

抽のさの下のりゆの

かろうふ

○こがせ

花見

わのさのりゆの

船のあ

○こがせ

こみしろまのりゆの女
たすありゆのり
海車

さのりゆのりゆの
あ



○こがせ

泥鰌 泥鰌
鰌魚

又濁り泥鰌

来久

とせし乳の條

新南亭

在雅

泥鰌のりゆのりゆの

りゆのり



涼しきハ泥鰌も涼む

りゆのり

芋香

○ ちりふこ

仙居

○ ちりふこ
ちりふこや海苔も

○ ちりふこ

海苔も

若林

ちりふこの果枝か

○ ちりふこ

解之

水産も ちりふこ ちりふこ ちりふこ



○ や
葎魚 載帽

兔菜

月ちりふこ ちりふこ

○ うつこ
雷魚

初月や

ちりふこの
産子立

○ ちりふこ

ちりふこをちりふこ
ちりふこをちりふこ
ちりふこの尻はよや

唐園

ちりふこも ちりふこの尻のちりふこ



△廿七

△廿八

○貝づくし

川喜丸踏ふとめり

待美

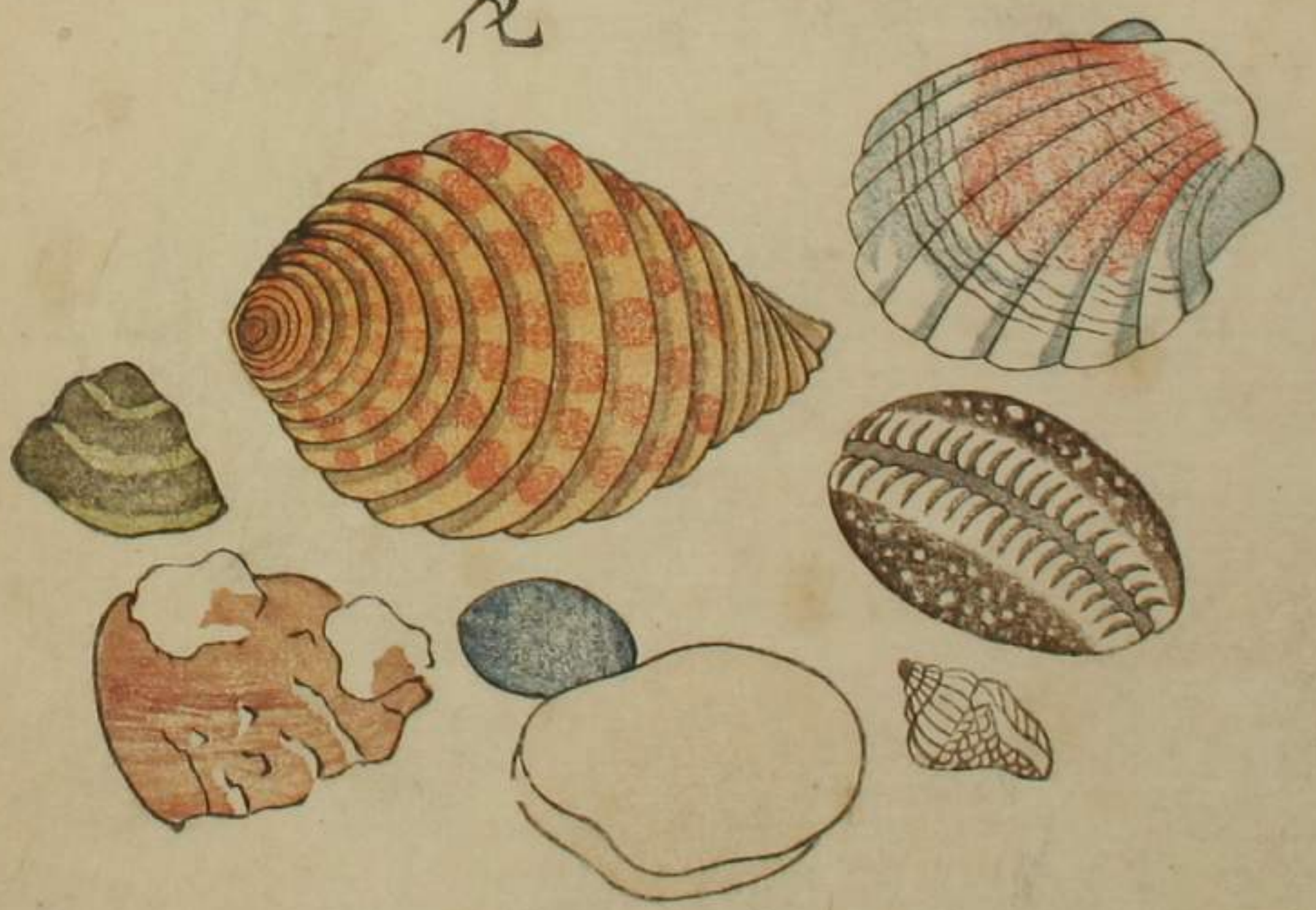
桜貝

海あけく

風よおそくしり

節花

簾貝



你のあそびは〜田井おちんちの
祇つ〜のあつ〜〜硯の海
あ〜〜〜古人の玉を〜
多経の貝を拾ふ

仙系

貝づくし風を二丁敷梅子



七
五

○ 緑毛龜

龜の浮く

泥も

あゝお

松のま

茶社子



茶社子

秋海河

東海よ 白魚の目も雲うら
 海原や 志よちねこれ一景
 乙女のすくもくもく秋波千波
 舟の波折ふあや 硯と里
 海山よ 梅を鯛張らうもふ
 硯と里 清きもすおろし佳の海
 存義
 平砂
 米仲
 祇丞
 買明
 梅川

うらむ 結果や 舞漂の 笹酒里
 真ち行や 魚の卵カヒも 海路水
 末の川よ 多ねくある 日や 津枝川
 岸川の ありけくもすくも 川
 橋あ ありと かつり ぼる 涼か
 日影うらむ 風さしあつた 感うら
 夏川や 波の 志らあけ 燈の 光
 ちくちくや 筏の 蚊を 水を 這ふ
 湖十
 石萬
 紀逸
 真賀
 珠来
 秀立
 超雪
 秀信

海原の 藝より 舟の 舞の 歌
 は 傳りし かと 思ふ つか あり 心
 亦よ 意なき 者 幸の 一を
 おろりて 謝すの

歌魚

片し濁にちりぬるは汐干う赤
心魚や黄門様のものさおろし
鮫おろし鯨も乃何とや在の漕
心し海にまきを麻あはは鯨か
上り極く仲をを信まきとや柳鮒
言帽よ急し松魚表や心魚の海
女も踏まきまきの心魚めう那
さしつゝ魚の山はくまは海嵐哉
白魚や海のりくま月と雪

中和
沾山
海旭
環山
岱貝
石鯨
風導
不吉
紫嵐

題目

すしとくやす海まきとく川す蛤
心し海をまきとや出く貝
吹あくるを海風ぬきとす貝
川真や岩木沈く月日貝

牛吞
葵足
去勢
金羅

1111

引傳

月志又あかりて海一海の幸
帆を帆を〜〜〜
めろさの救へりけし併搦て
祢あしれ出来を匍匐して見る
舟の皮根毎の回、はうさささ
〜〜〜園との葉よめさ〜〜

秀園
冥明
存義
祇丞
平砂
登匣

△
7
5

わのめ入河河と人の嵐以ろ
濱の砥石若きに拵〜〜
樵漏〜塩木ほ〜〜
手をう〜思をう〜て執と云
東十人路家さ〜ふ女那里
〜〜〜朝鮮の流
軍〜〜志〜波〜松の磯
〜〜〜馬路よ〜夕〜
休む日強荷痛の色み、秋の風
〜〜〜あ〜の〜ち

明
蜀
丞
義
匣
砂
義
明
砂
匣

△
7
6

取々々唐の山隅々糸車
 河内の住山ま誠忍々
 俊基も遠近人ようち居一里
 走々教狐いつとやに
 々々いつち祢宣の言昇を掛泣
 之つものひしみのひしを鞆
 雪のさへ油草も顔向あゆり
 杉り々猿も福田の百性
 字のひ答る例々々時花や
 ぬ多々人交た々々梅戸
 園 承 画 砂 明 義 承 園 画 園 画

藤々藤赤あ毒々々々々
 長ふあやこく社地も登原る
 月の句を厚風々情や其嵐桃
 種持以の筋も智系一
 尾海所の葦の垣すあ荒ふ里
 地震もはよれた水戸のありこ
 や晴々幟を横々言ぬきに
 案々あ幸ふ川信の家
 不々粒見俤ぬ本哉留さ若餐
 何何々々々々々々この昼
 園 承 画 砂 明 義 承 園 画 園 画

寶曆十二年^{壬午}歲八月

大傳馬塙町

書林 伊勢屋治右衛門

京橋南一町目

同 山崎金兵衛

大傳馬町二丁目

彫刻并 關口甚四郎

彩色摺 同 藤吉

